

Mommy

マミー

©2024digTV

母は、
無実だと思う。

和歌山毒物カレー事件から
26年目の挑戦



死刑を考える日 映画「マミー」上映会
入場無料・予約不要

日 時 2026年 1月24日(土)

上映時間 1回目9時45分～ 2回目12時30分～ 3回目15時15分～

場 所 せんだいメディアセンター

(宮城県仙台市青葉区春日町2-1)

主催 仙台弁護士会 共催 日本弁護士連合会 東北弁護士会連合会

(お問い合わせ先)仙台弁護士会 仙台市青葉区一番町2-9-18

電話番号022-223-1001

和歌山 毒物カレー事件

©2024digTV

1998年7月、夏祭りで提供されたカレーに猛毒のヒ素が混入。67人がヒ素中毒を発症し、小学生を含む4人が死亡した。犯人と目されたのは近くに住む林真須美。凄惨な事件にメディア・スクラムは過熱を極めた。自宅に押し寄せるマスコミに真須美がホースで水を撒く映像はあまりにも鮮烈だった。彼女は容疑を否認したが、2009年に最高裁で死刑が確定。今も獄中から無実を訴え続けている。

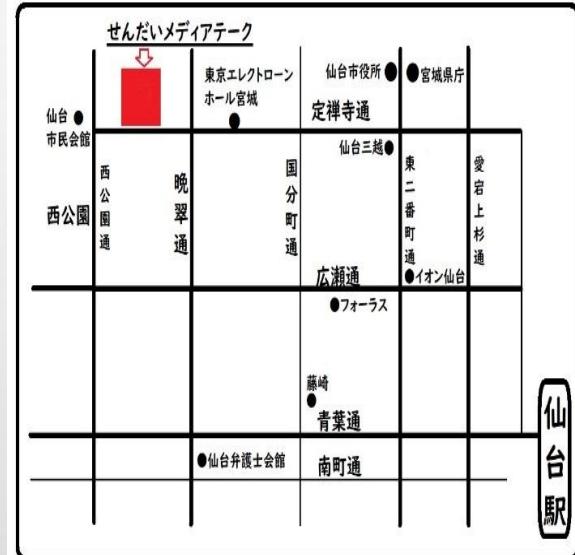
事件発生から四半世紀、 最高裁判決に異議を唱える。

本作は「目撃証言」「科学鑑定」の反証を試み、「保険金詐欺事件との関係」を読み解く。「まあ、ちょっと、どんな味すんのかなと思って舐めたわけ」とヒ素を使った保険金詐欺の実態を真須美の夫・林健治があけすけに語り、確定死刑囚の息子として生きてきた林浩次(仮名)が、なぜ母の無実を信じるようになったのか、その胸のうちを明かす。林真須美が犯人でないのなら、誰が彼女を殺すのか?二村真弘監督は、捜査や裁判、報道に関わった者たちを訪ね歩き、なんとか突破口を探ろうとするのだが、焦りと慢心から取材中に一線を越え…。

映画は、この社会の
でたらめさを暴露しながら、
合わせ鏡のようにして、
私たち自身の業や欲望を映し出す。

仙台弁護士会の「死刑を考える日 映画上映会」は、今年で10回目となります。仙台弁護士会は、死刑制度が抱える人権上の問題を踏まえ、2021年2月、政府及び国会に対し、死刑制度を廃止すること、死刑制度が廃止されるまでの間、死刑の執行を停止することをそれぞれ求め、死刑制度廃止の実現に向けた取組を進める決意であることを決議しました。

この映画は、えん罪の可能性を持つ死刑確定判決にどう向き合うのかと私たちに問うています。生命を断つ死刑とえん罪について考えるきっかけになれば幸いです。 仙台弁護士会



M o i n m v

マミー

監督：二村真弘・プロデューサー：石川朋子 植村英美 (ARTicle Films)

撮影：高野大樹 佐藤洋佑・オンライン編集：池田聰・整音：富永憲一・音響効果：増子彰

音楽：関島種彦 工藤遙・製作：digTV・配給：東風

2024年・119分・DCP・日本・ドキュメンタリー・© 2024digTV